

NEUTRAL 通信 vol.6

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」というNEUTRALのコンセプト実現に向け、NEUTRAL通信を発行しています。

第6回目は、美術家の田中奈津子さんにインタビュー。

NEUTRAL通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

2F: [Gallery NEUTRAL]

Asobo bersama Natsuko dan GHH

ナツコとゲーハーハー(GHH)と遊ぼ

2023.1.14 sat. - 2.5 sun.

全館展示: [EXTRA-NEUTRAL]

遠くからはっきりと

Yang jauh terlihat jelas

2022.12.28 wed. - 1.29 sun.



美術家

田中 奈津子 (たなか なつこ) / NATSUKO TANAKA

1981 福岡県北九州市生まれ。2007 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。京都、東京、福岡を中心に紙、布、絵具、ドローイング等を組み合わせた作品の展示、発表を行う。2020年より移住したインドネシア・ジャカルタでプリントメイキングを中心に活動するアート・コレクティブ Grafis Huru Hara (GHH) と出会い2022年より共にワークショップなどの活動を熱心に行っている。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE

先日、みやこめっせで開催された「文学フリマ」というイベントに行ってきました。小説、エッセイはもちろんのこと、詩、短歌、絵本、批評誌など幅広いジャンルの本が一同に集まった即売会で大いに盛り上がりしていました。作家さんのそれぞれの思いが詰まった1冊を眺めているとついつい手が伸びてしまい、気がつけばバッグが重く……。書店は即売会のように作家さんが直接販売することはありませんが、私たち書店員が作家さんに代わってお客様に思いの詰まった1冊をお届けできればと思っております。おすすめの一冊：矢萩多門『本とはたらく』(9784309030118)

営業時間：10:00~22:00 TEL：075-431-5551



当店で手作りしている定番メニューの「こく旨たまごのホットサンド」や「ハムとレッドチェダーのホットサンド」はもうお召し上がりになりましたか？ コーヒーやラテと一緒に、ぜひほっこりとしたひと時をお過ごしください。ご存じの方も多いかと思いますが、当店では自家焙煎豆を使用しています。ブレンド比率は・・・エチオピア産の豆が味の決め手です。

営業時間：8:30~23:00 TEL：075-431-5551

SHOKODO
KYOTO

ひとつの作品として、一冊の本「Color of the Seasons」を発表しました。未来の暦は言葉でなく、色で表されるようになります。本書は72色の色紙から構成されています。作者の近藤雅士さんはこの72色をもって1年としました。ぜひ昌幸堂のショールームで本書を手にとって、細やかな季節の変化と伝統色の組み合わせを感じることでより過去の暦と未来の暦がつながる新しい季節の感じ方を体験してください。

営業時間：10:00~18:00 TEL：080-4248-3432 月・日・祝 定休

NEUTRAL

田中奈津子+GHH (Grafis Huru Hara)
Asobo bersama Natsuko dan GHH ナツコとゲーハーハー (GHH) と遊ぼ
2023.1.14sat.-2.5sun.

[EXTRA-NEUTRAL]

田中奈津子「遠くからはっきりと」

2022.12.28wed. - 1.29 sun.

営業時間：10:00~19:00 TEL：075-431-5537

Gallery PARC
GRAND MARBLE

「ライズ・オブ・ライフ～谷本研自分史大年表～」

2022.12.25sun.-2023.01.22sun.

営業時間：13:00~19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休



〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287

[アクセス]

○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分

○京都市バス9番・12番・50番・67番系統

「堀川中立売」バス停下車徒歩1分

○駐車場・駐輪場あり

※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。



ホームページ



Instagram

お問い合わせはHPまで



—どのような子供時代をお過ごしでしたか？

一人っ子だったので、絵を描くとか本を読むとかが多くて、それが今に繋がっています。文学、音楽、芸術、好きな子供時代をすごして、高校三年生の進路を選ぶ時に、絵なら自分らしいことができるかなと思い、美大進学を選びました。

—どのような作家活動をされていますか？

卒業後はずっと京都で活動していて、個展をさせてもらったりグループ展に参加したりしてきました。その中でたくさんの作品を見たり、ギャラリーのスタッフやお客さんの生の声を聴いたりという経験が作家として育ててくれた気がします。

生きているとどうしても社会的な制約とか制限を受けますよね。その中でどういう風に絵が描けるのかどんな画面が出来上がるのか、という意識で絵を描いて作品を発表することが多く、毎回私が置かれている状況によって絵のテーマも手法も変わります。制限や制約の中で一つのフレームをもちいて表現することで日々の変化や違いが見えてきます。二〇二〇年からインドネシアに移住して、インドネシアで活動しています。

—Grafs Huru Hara (GHH) との出会いは何のようなものでしたか？

二〇二一年の初めに彼らがインドネシアで開催していたオープンスタジオに知人の紹介を介していきました。初めて会ったにもかかわらずよく来たね！と歓迎してもらいました。その後コラボしたいね、という話もしていたんですがコロナが流行ってしまっただけでできなかったんです。二〇二二年からやっと一緒に制作活動ができました。

—GHHの作品に関して伺います。

GHHはインドネシアのアートコレクティブで、現在八名のメンバーと研修生二名が在籍しています。今回はGHHの四名と研修生二名、彼らの友達二人（！）の作品を展示しています。コレクティブの中に様々な版画の技法や技術を持ったメンバーがいるので、あえていろんな技法が並ぶように展示しました。

外面のポスターは版画の普及用にプロパガンダポスターをイメージして作られたものと、他のイベントとのコラボで作られたものを展示しています。

魚拓の作品は、私とGHHとのコラボワークショップの成果物を展示しています。

一緒になにかやろうとなった時に、版画であることがGHHのアイデンティティなので、日本独自の版画があるのか考えて魚拓を思いつきました。そこで、みんなで魚拓を取って、魚をさばってお寿司にして食べる、という一連のストーリーがあるワークショップを行いました。それをふまえてGHHがRe:Gyotakuというワークショップを行いました。海でゴミを拾って、それを木の板に張り付けて魚拓を取ろうというワークショップです。インドネシアでは海洋汚染の問題が深刻で、ゴミから何か生産的なことができないかという発想から来ています。それらの作品を併せて展示しています。

—今回、全館展示もしていただいています。そちらについてはいかがでしょうか。

全館展示の作品は日本とインドネシアを行き来する隔離期間中に何か出来ないかと思ったのがきっかけです。コロナ下でインドネシアではほとんど人に会っていません。その中で印象に残っていたのが植物で、それを思い出して描きました。今回はバティックに描いている作品もありますが、インドネシアは西洋画の画材が高くて気軽に描けるような値段ではなくて。かたや市場に行くのと反物がたくさん売っているので、それだったらこれに描いてみるのが良いかなと思いました。

—影響を受けた作家や好きな作家はいますか。

画家でいうと、マティスとかトゥオンブリーが好きで、あまり工芸的ではないというか、技術的に優れている（秀でている）というわけではない絵。あと本人が長生きしているのも良くて。長い人生とともにずっと絵を描いて、その中で多分、良い絵もあり悪い絵もあり、人生の変化も画面に出てくるというのがまっとうだなと思って。そういう人たちが好きで、尊敬しています。

—製作環境についてお聞かせください。

京都に住んでいたところはアパートの一室で描いていました。今は、日本では北九州にある実家の裏の古民家をスタジオにしています。ジャカルタでは住んでいる部屋の一角を大きいタンスで区切って使っています。集中しやすい環境ではないですね（笑）。

—展覧会に来られた方に一言お願いします。

あまり難しく考えずに、モチーフがある作品ですので、自由に見てもらえればと思います。



好きな本

インドネシア語の本（を読み解くこと）